

被災地へ変わらぬ支援

図書購入支援団体

被災地支援に取り組むブック・エンド・ドリームプロジェクト(盛岡市、紺野衆代表)は、釜石市鵜住居町の釜石東中(高橋勝校長、生徒143人)と鵜住居小(村上清校長、児童169人)に計10万円分の図書カードを贈り、本を通じた子どもたちの成長を願った。

盛岡市山岸の元高校教諭小山卓也さん(77)が作製した「作品ノート」の益金で、小山さんと紺野代表(58)らが釜石東中を訪れ、両校長に贈呈した。

小山さんは1990年代に大槌高校に在職していた。作品ノートは当時、小山さんが各地を歩いて描いた三陸の風景を表紙にした和紙のノートで、これまでも益金で大槌町の小中学校に図書カードを寄贈してきた。小山さんは「今後も仮設校舎の学校を中心に活動を続けたい」と意気込みを語った。



子どもたちの教育に役立ててもらおうと、図書カードを手渡す小山卓也さん(左)と紺野衆代表(左から2人目)

20代の頃に当時読んでいた本の影響でサハラ砂漠を旅した経験があるという紺野代表は「本には人を動かす力があるので、教育に役立ててほしい」と思いを込めた。